



# 火災は春とともにやってきました

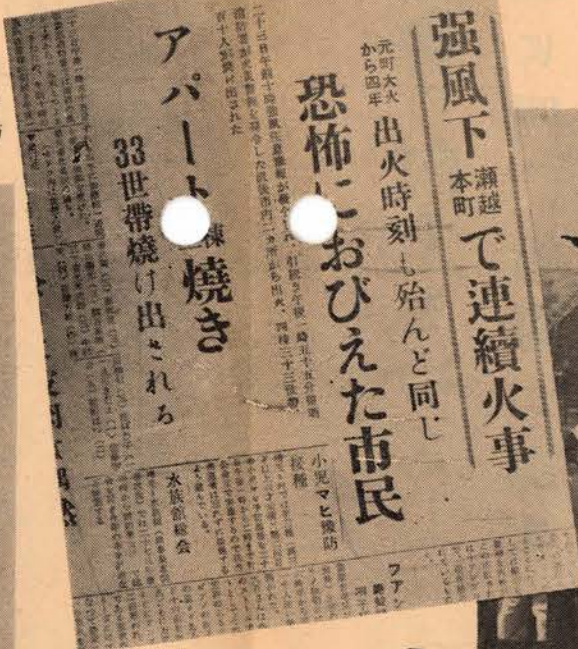
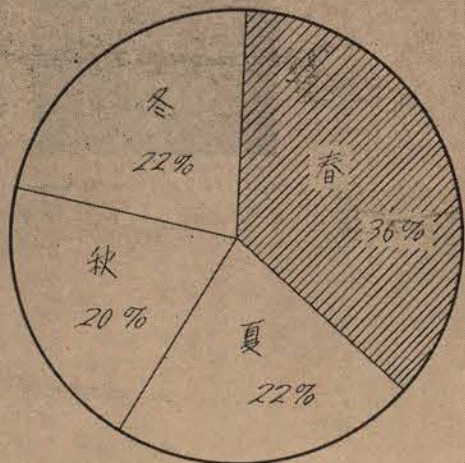
36年の火災	
損害額	1,624,300円
焼失面積	1,365m <sup>2</sup>
死者	なし
傷者	21名

▲「ソレ火事だ」火災の連絡を受けてから10秒で消防車が現場に向う

もし火災が発生したら……

自分で消してやろうという気持ちが大火のもとです。まず消防署に連絡しましょう。電話で「火事」といえば消防署につないでくれますが、あわてず場所をわかりやすくいいます。そのためには、ふだんから付近に電話のある所を知らべたり、電話のかけ方を声を出して練習しておくのもよい方法です。

こんなに春の火災が多い



36年5月23日に発生した銀汀荘火災の写真と新聞



5月22日ほど、春の火災が多いことをあらわすことはない。31年元町火のあったのもこの日。きよねん瀬越町銀汀荘と本町旭東アパートの火災があったのも5月23日だったから。しかしこの危険はこの日に限ったことではないいつもあなたの付近にまわりついているのです。

「逃げるのがヤット。」という老婆は、顔をつたう涙もぬぐわず、余燼くすぶる焼けあとを整理し始めた。しかし、あすからの生活を考えると胸のつぶれる絶望感がまたしても涙をさそう。「わたくしの責任ではなかったのに……」

ことしも、四月二十日から春の火災予防運動がはじまりました。春は一年間を通して一番火災の多い時です。留萌市は、風が強いこと、建物が木造で老朽化していることなどから非常に火災の危険率が高い。帯広の三・二倍、滝川の二・六倍という五・五パーミリの平均危険率は、一年間に千余坪にのぼる焼失の危険にさらされているという。この危険を防ぐものは、みなさまの注意にかかっているとって過言ではないのです。

△読むまえに▽ 火災は一年間のうちの季節が多いでしょう。火災を防ぐためあなたは何んな注意が必要でしょう。



火事がなくとも消防署では休みもありません。実際の消火活動を反省し、機械の整備、それに防火指導がきょうも続けられています。

## これからはこんな火災原因が多い



たばこの火が、いつも火災の危険をはらんでいる。寝ながらのたばこ、吸いがらの不仕末、それが一番こわい。おとなの腰をかすめて、子どもたちはきよ最近石油コンロの火災が多くなった。使用うも危険な遊びをしている。子どもの火遊び中に石油を漏れしたりする不注意が一番おそろしい。



＜おわび＞ この記事の中ほどに「5月22日ほど、春の火災が多いことをあらわすことはない」は5月23日の誤りです。